

いっすんぼうし
一寸法師じゅけんいりぐち
受験入口 ①いっすんぼうし
一寸法師

(日本の昔話)

昔、子どものいないおじいさんとおばあさんが、神様にお願いをして、男の子をさずかりました。

ところが、その子は、いつまでたっても、指ほどの大きさにしかありません。二人は、その子を「一寸法師」とよびました。

ある日、一寸法師は、都へ出てりっぱなさむらいになると決め、おわんの舟にのって川を下りました。

都で、一寸法師はお姫様のおともをすることになりました。とちゅうで鬼があらわれ、一寸法師をのみこみました。一寸法師は、鬼のおなかの中で、はりの刀をふり回しました。鬼はたまらず、

① それをはき出してにげていきました。

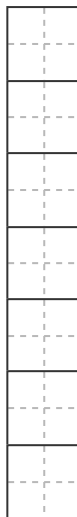
鬼が落としていった打ち出のこづちをふると、一寸法師の体は、ぐんぐん大きくなりました。

① いっすんぼうし
一寸法師は、何にのって川を下りましたか。



の舟

② 「それ」とは、何のことですか。



③ 鬼がにげていったのは、どうしてですか。

④ 打ち出のこづちをふると、どうなりましたか。

ア お金が出てきた。

イ 体が大きくなった。

ウ 鬼がもどってきた。

⑤ いっすんぼうし
一寸法師は、どんな人物だと言えますか。

ア 体は小さいが、勇気がある。

イ 体が大きく、力が強い。

ウ おくびようで、すぐににげる。